

ついに9月20日にアジア初開催となるラグビーワールドカップが日本で開幕した。日本チームの想像以上の活躍でにわかファンが日本中に急増している。私もその一人だが、世界のトップクラスの試合を観戦してみると、今まで自分が抱いていたラグビーの概念が大きく変わり、一瞬も目を離せないエキサイティングな面白さをあらためて知った。さて、日本チームは開幕から連勝を重ね先週末のスコットランド戦にも勝利し、開幕4連勝で決勝トーナメント進出を実現してしまった。どこまで勝ち進めるか今後の楽しみである。ラグビーの有名なキャッチフレーズに「one for all, all for one: 一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」があるが、これは患者のために丸丸となって努力する「脊椎脊髄ジャーナル」の読者にも当てはまるのではないかな。

さて、本号の特集は中村雅也先生の企画による「頸椎症性脊髄症に対する手術治療戦略」である。脊椎脊髄外科の基本的な手技であるため、過去にも何度か同様の特集が組まれたのではないかとこれまでの特集を振り返ってみたが、意外と頸椎症性脊髄症にフォーカスした手術治療戦略の企画は見当たらなかった。というわけで、本誌では頸椎症性脊髄症に対するさまざまな術式の最新の知見がその専門家により紹介されており、それぞれの特徴を一度に比較することもでき、興味深い特集となった。日本で開発された手術手技も多く、読者に有用な情報を提供してくれる。

Nomade では金景成先生が「シームレス」というタイトルで示唆に富む一文を寄せている。腰下肢痛・しびれといった患者の訴えを中心に診療していると、脊椎脊髄疾患から末梢神経疾患までシームレスに診ていく必要性が出てくる。その結果、末梢神経疾患の患者が増加し、その理解も深まり、ひいては脊椎脊髄外科診療の精度も高めることができる。結果として患者の満足度の向上に資することになる。ちなみに、日本脳神経外科学会のキャッチフレーズは「外科医の目と技を持った神経系総合医」である。当然、脳、脊髄から末梢神経まで神経系すべてをシームレスに診療できることが脳神経外科医の使命と考えている。

(高安正和)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 11
(2019 年 11 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,300 円 + 税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 30,700 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,

Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。